

埼玉県信保協

決算書共有し効率化

全国初の「クリプト便」

埼玉県信用保証協会
(砂川裕紀会長)は11

月1日、金融機関とともに取引先の決算書データファイルを共有するサービスを始めた。NRIセキュアテクノロジーズのファイル共有サービス「クリプト便」を活用したもので「同サービスを利用するのは全国の保証協会です。初めて」（企画総務部企画課）。調整中の

埼玉県内8金融機関が全て利用した場合、決算書を郵送、持ち込むの比べて年約2100時間の事務負担を軽減できる。

県内8機関は、2銀行（埼玉りそな、武蔵野）、4信用金庫（埼玉県、川口、青木、飯能）、2信用組合（熊谷商工、埼玉）。当該金融機関から書面で決算書を受領する場合は、スキヤニングなどをしていたが、サービス利用でその負担を削る。

減できる。金融機関側は、同信保協提出用の決算書のコピーや郵送などの事務負担を軽減できる。これにより、保証申し込みから融資実行までのリードタイムを短縮でき、中小事業者への円滑な資金供給につながる。

「クリプト便」は、政府情報システムのためのセキュリティ制度評価「ISMAP」で政府が定めるセキュリティ基準を満たしている。